

上越市長

村山秀幸様

北陸新幹線上越（仮称）駅のデザインに関する

提案書

平成22年6月1日

上越市新幹線駅周辺地区まちなみ検討会議

北陸新幹線金沢延伸開業を5年後に控え、委員10名により設置された新幹線駅周辺地区まちなみ検討会議では、新幹線駅舎と駅前広場等からなる駅周辺公共空間の調和を目指して5回の会議を重ね、このたび検討の中間地点を迎えました。

まちなみ検討会議の検討のなかでは、平成16年に要望した「北陸新幹線上越（仮称）駅の整備に関する要望書」をもとにしながら、雪深い場所にふさわしい機能性を備えると同時に、上越らしさを感じていただくことのできる空間となるよう、「使いやすさと地域らしさ」が両立する、全国のどこにもない上越らしい駅周辺公共空間を目標としてきました。

とりわけ都市のシンボルとなる駅舎については、地域の個性を競いあう時代において、地域の魅力や個性を直接的にアピールするものであり、非常に重要な存在となります。

このような認識のもと、新幹線駅を検討するなかでたどり着いたのが、このたびの「記憶に残る駅」というコンセプトであり、このコンセプトとともに4つのデザイン案についても検討いたしました。

上越市におかれては、今後の駅舎建設に当たり、この駅舎デザインコンセプト及びデザイン案が最大限に反映されるべく新幹線の建設主体である鉄道・運輸機構にご提案いただき、地域に暮らす市民が百年先にも誇れる、駅周辺の公共空間と一体となった「記憶に残る駅」がぜひとも実現されるようお願い申し上げます。

上越市新幹線駅周辺地区まちなみ検討会議座長 水野 一郎

上越（仮称）駅のデザインコンセプト

「 記憶に残る駅 」

雄大な自然や歴史、桜に彩られた街並み、豪雪にも対応した
駅舎構造など、地域性に対応し、そして、これらをデザインに
取り込むことで、誰もが上越とわかるような“上越をアピール”
する駅空間

資 料

- ・別紙 新幹線駅舎デザインコンセプト「記憶に残る駅」のデザイン案（A～D案）及び
駅舎屋根の融雪装置に関する技術提案
- ・参考 上越市新幹線駅周辺地区まちなみ検討会議における駅周辺公共空間の考え方
（新幹線駅舎のデザインコンセプトに至るまでの検討の過程）

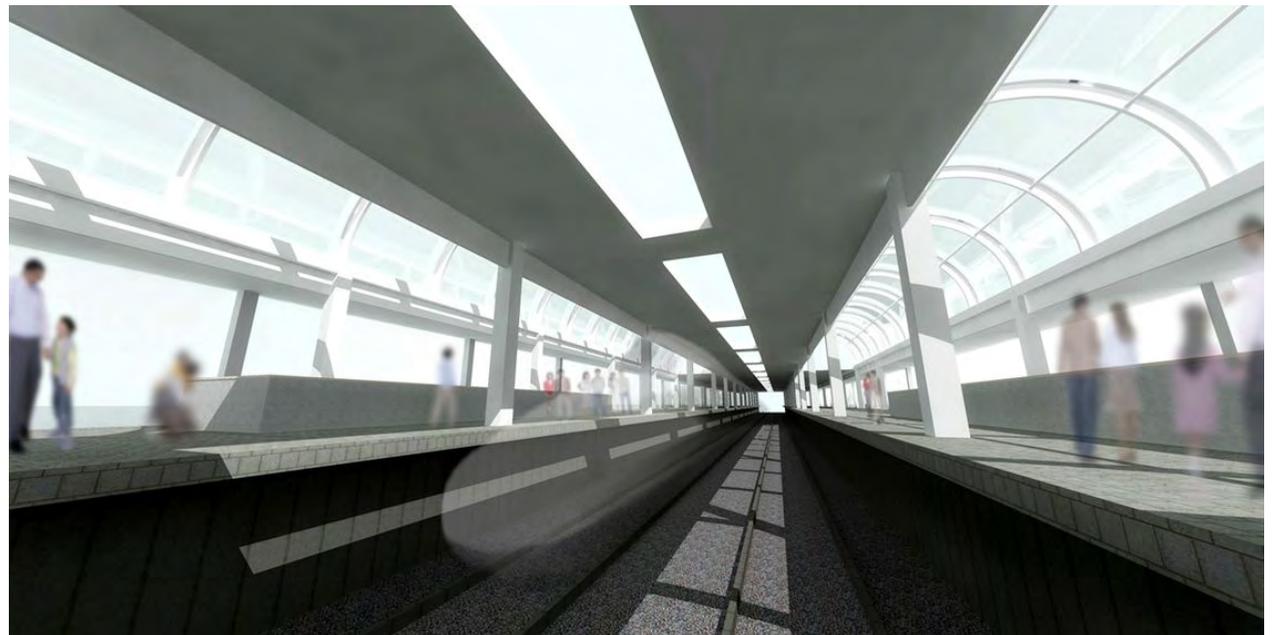
300m超にわたる駅舎屋根を「雪のトンネル」をイメージした半円形とする。

この屋根構造により自然光を取り入れる点に特徴があり、こうした形状の屋根をもつ新幹線駅は他にない。

一般に暗くなりがちなホーム内もこれによって非常に明るい空間となり、上空の青空や外の山並みなど、自然空間との一体感が心地よく感じられる。



上越(仮称)駅デザインコンセプト
「記憶に残る駅」
A案



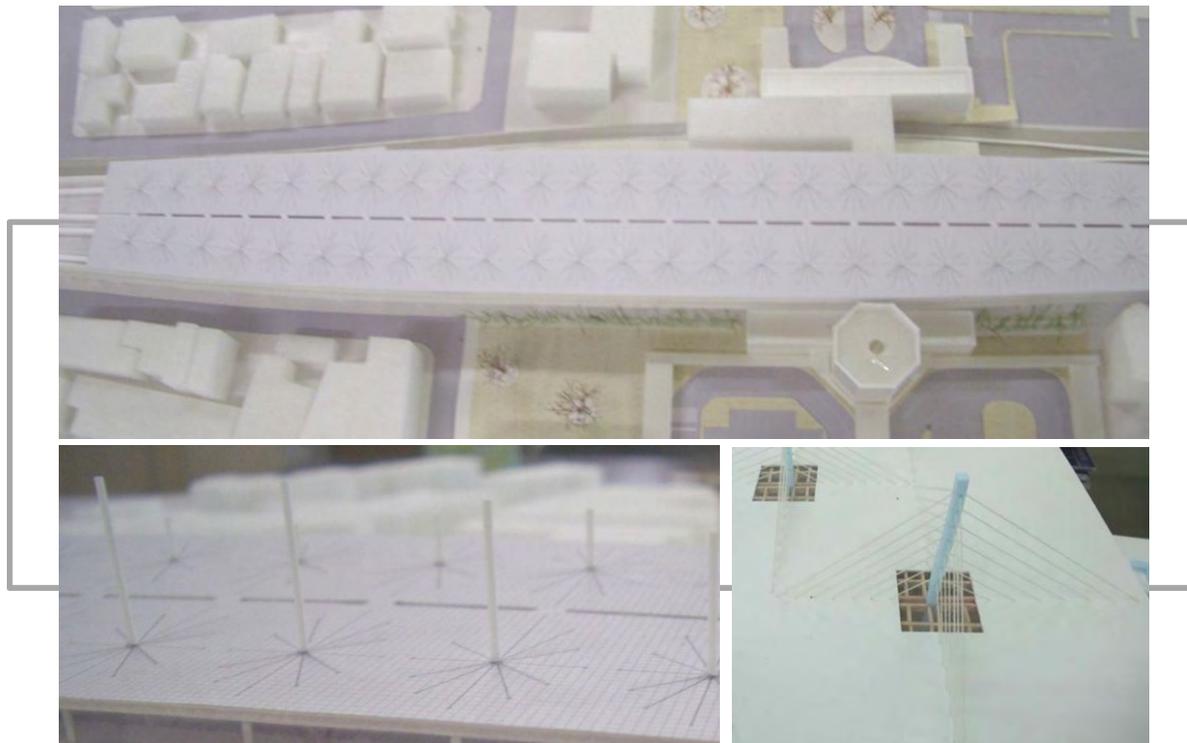
高田公園の“雪吊り”をイメージした吊り構造の屋根が特徴で、同様の構造をもつ新幹線駅は他にない。

屋根上に突き出た柱の長短により山並みを表現し、ここをLEDなどでライトアップすることにより、美しい夜景も楽しめる。

ホーム内の構造（柱）が一般的なものより少ないため、内部が広くゆとりが感じられる。また、天井に木を用いることで、あたたかさや心地よさが伝わる。



上越(仮称)駅デザインコンセプト
「記憶に残る駅」
B案



外壁ガラス面に、上越のシンボル「さくら」の絵やさまざまな情報の文字をセラミックの焼き付けにより描く。

この仕掛けによって、例えばふるさとに帰ってくる市民には懐かしさを、ホームに降り立つ人にはおもてなしのメッセージを伝えることができる。

自然空間と向き合う西側、都市へ向かう東側、ホームに立ったときそれぞれの空間と情報を楽しめる。こうした仕掛けをもつ新幹線駅も他にはない。



上越(仮称)駅デザインコンセプト
「記憶に残る駅」
〔案〕

